

編輯部報情閣内

週報

五月三十一日號

第三七號
昭和十四年五月三十一日發
（毎週一回水曜日發行）



新東亞
讀本

9 支那の民情と民族性（下）

農村勞働力の問題
關門トンネルの話
草の利用について
日本海海戰の戰果と日露戰爭
獨伊同盟成る

五錢

意その遂行に意を注いでゐるのである。

然らば、今肥料その他の生産資材の問題は暫らく之を措くとしても、この重要な意義を有する現下我が國農産物の生産計畫遂行上にその労働力に於いて果して不足するところ無きや否や、この問題は誰しも憂慮する處であり、等閑に付することの出来ない問題である。

二 内地の農業労働力

昭和五年の國勢調査に依ると同年に於ける有業者總数は二千九百六十二萬人であつて、この中、農業者の数は一千四百十三萬人であり、その有業者總數に對する割合は四割七分強にあたる。農業者數の中七百七十三萬人は男であり、六百四十萬人は女である。また抽出調査に依ると農業を副業とする者の數は五百八十一萬人であり、その中、男は三百四十四萬人、女は二百三十七萬人である。

農業者と農業を副業とする者との合計を求めると、その總數は一千九百九十四萬人であつて、その中、男は一千百十七萬人であり、女は八百七十七萬人である。

農事統計に依ると、昭和五年の農家戸數は五百六十萬戸であり、總戸數に對する割合は四割六分である。また昭和十一年に於ける農家戸數は、昭和五年の數に比して大差なく、概數は同じく五百六十萬戸であり、總戸數に對する割合は四割二分強である。

農業従業者の數と農家戸數とが大體に於いて比例するものと考へれば、事變前に於ける農業従業者の數は、大體昭和五年の數と大差無いものと思はれる。

農家には、平素は農業に従事しない者でも、農繁期には圃上に或ひは屋内に於いて農作業に従事する家族等

が相當多數にあると思はれるから、農繁期には、右にあげた數よりも更に多くの數の人員が、農業に従事するわけであるが、その數は明確でない。

三 労働力の過剰と不足

世間には、あるひはかういふ人があるかもしれない、農村は今迄人口過剰で苦しんでゐたではないか、従つて今労働力を少々取られたらと云つて不足すると云ふのはをかしい、と。然しながら従來農村人口が過剰であつたと云ふことは、働き口が無くて遊んでゐる人間が深山養はれてゐたと云ふ意味では決してないのである。否、働ける者はことごとく働いてゐるのである。たゞその労働の經濟的成果が少いために人並の暮しが出来ないといふ人間が多かつたといふことを意味するのである。

従つて農村から労働力が流出することは、大抵の場合、農業生産に何等かの寄與をなしてゐる労働力が流出するのである。また農閑期に農民が多少のひまがあるのみで、農村には過剰労働力ありと論ずる者があるが、それは甚だしい認識不足であつて、農村労働力は農繁期に於いて全力を擧げて活動してゐるのである。そしてこの時期には平素農業に従事してゐる者は勿論のこと、平素家事に従事してゐる婦人や、既に家業から隠退した老人も亦農作業に従事し、學童も學校を休んで農業を手傳ふものが多いのである。

従つて多少農閑期に閑暇な労働力があるとしても、それは農作業の性質上やむを得ないことであらうであり、また農繁期の多忙な作業に備へる爲めの必要な休息であることと云ひ得るのである。

以上の如く農村に於ける人口或ひは労働力過剰とは、主として農家經濟上の問題であるが、或ひは誤つた理解に基づいてゐることがであると云ひ得る。

次に最近憂へられてゐる農村人口の減少或ひは勞力不足の問題とは、先づ第一に、國力の維持發展の見地から見て農村人口特に優秀なる青年層が極端に減少することは憂ふべき事實であるといふ問題であり、第二に現在或ひは將來の國家活動の維持發展の爲めに必要な農業生産の維持擴充といふ點から見て、果して勞力に不足するところなきや否やの問題である。勿論これらの問題は農家經濟の問題と密接に關聯してはゐるが、幾分觀點を異にした問題であるといふべきである。

然らば果して國力の維持發展の見地から見れば幾何の農村人口を保留すべきか、或ひは國家活動の維持發展の爲めに農業生産を維持擴充する見地より果して幾何の勞働力を必要とするか等の問題は、國力維持發展の爲めに農村人口の果しつゝある役割、農業勞働の生産力等より究明されなければならぬ。

四 勞力不足の現状

現在農家が勞力不足の爲め困難してゐるのは、主として農繁期の問題である。農業勞働が季節的に集中してゐることは云ふまでもないのであつて、例へば稲作に於いては、地域的に多少の差違はあるが、大體六月の末から七月へかけての田植時期、十月、十一月の收穫期が最も忙しく、稲作勞働の大部分がこれらの時期に集中してゐる。また夏作と冬作の二毛作を行ふ地方にあつては、春から夏へかけては、冬作の收穫を終へて直ちに夏作の爲めの整地植付をしなければならぬし、秋には、夏作の收穫を終へて直ちに冬作の植付の準備をしなければならぬ。また養蠶が加はる場合には、その忙しさは更に加増するのである。従つて夏と秋との勞働需要は、各農家の重複によつて著しく重なるのが一般であつて、農家は家族勞力の全部を擧げて活動し、その不足する處は雇入勞力を用ひ、いはゆる「猫の手も借りたい」ほどの忙しさの中にこれらの農繁期を過すのである。

現在、農村勞力が流出した結果、一體この農繁期を如何に切り抜けるかといふことが各農家にとり、また一國の農業生産といふ見地から見れば重要な問題となつて來た。農家は從來の農法を以つてしては短期間に作業を終了することが出来ず、その結果、農作業が甚だしく遅延する場合には、勢ひ收穫が影響を受けざるを得ない状態にあり、また作業を少しく早く開始するとしても前作の關係、病虫害、氣象條件等の爲めに、不可能の場合が少くないのである。

然らば勞力不足を雇傭勞力に求めようとしても、現在農家の常雇は著しく減少を來たしつゝあり、また工場方面に流出した勞力の多くが、臨時雇として農繁期の雇傭勞力を提供してゐた下層農家の子弟であつた爲め、農村に於ける雇傭勞力は著しく拂底を告げてゐる現状で、また農業勞賃も著しい騰貴を示しつゝあるものであつて、雇傭勞力を容易に、また適當の勞賃を以つて入手することも困難な實狀にあるのである。

従つて農家は甚だしく過勞に陥つて體力を損ずるか、不十分なる作業によつて收穫減退を結果せざるを得ない状態を招く懼れがあるのである。

五 勞働力流出に伴ふ諸問題

(一) 現在、農村の勞働力は殆んど無計畫に流出してゐると云つてよい。その結果する處は勞働力減少が地域的に著しく偏在してゐるといふことである。そして勿論、勞働力減少が著しいのは工場近傍の農村、特に自轉車でもつて通勤し得る範圍の農村なのである。速く郷里を離れて工場勞働者となる場合よりも、自家に起居しながら、工場に通勤する場合の方が多いのは當然であり、殊に、工場地の住宅或ひは貸間の拂底と家賃開代の著しい騰貴とはこの事實に拍車をかけてゐる。

右の事實が結果するところは、一國の農業生産の受ける影響が大きいと云ふことであつて、この點から見ても労働力供出を計畫化して、廣い地域より労働力を送出することとし、また工場側に對しても寄宿舎の設備を設けさせる等の方策が重要なことを知るのである。

(二) 次は經營指導力の問題である。我が國従來の農業經營にあつては、その大部分は父祖傳來の農法を受けついで居り、農業生産方法の發展といふものが著るしく少かつた。これはいろいろの原因に基づいてゐるのであるが、人口の壓迫といふことが大きな原因をなしてゐることは争はれない。然るに今やこの原因が漸次に取り除かれつゝある。今こそ農業は發展すべき時期であり、又その發展を期することが、現在の國家目的に適合することは云ふまでもない。然しながらその發展指導力たる農村中堅青年の數は現在どれほどであるか。もしもかゝる中堅青年層が著るしく減少するならば、日本の農業は依然として舊來の農法を維持したまふ、労働力の流出するに從つて縮小することを餘儀なくされ、農業生産は著るしい減退を蒙らざるを得ないであらう。

(三) 次に農業生産の維持發展に資すべき他の生産諸資材の供給状況は如何。馬の徴發に依つて畜力と自給肥料が影響を受け、肥料農具等の生産諸資材に就いてもその供給は潤澤を期するといふことは困難な事情にある。また耕地は、工場の敷地及びその附近の住宅商店等の敷地、軍用地、鑛山關係地等の増大の爲め失はれる箇處が少くない。

かゝる事情は、殘存労働力の効果を十分に發揮せしむべき他の諸手段が充分でないといふことを意味してゐる。以上の如き諸點より見て、將來に於ける農業労働力問題は、いつ迄も安心して可なりといふべき筋合のものではない。労働力の流出にして、際限なく、又その流出が無計畫に行はれ或ひは流出後に於ける經營の發展が圓滑ならざる場合には、現在殆んど支障なく調達し得てゐる農産物を遂に供給し得ざるに至るであらう。

かゝる事は勿論許し得ない事からであつて、政府としては充分なる計畫性を以つて現在の國家活動に必要な農業生産の遂行に遺憾なきやう、生産資材、労働力等の各産業部門間の配分を考慮し、また労働力、その他の生産手段の充分なる利用等に就いて對策を講じてゐる。

六 政府の農業労働對策

事變が勃發するや政府は農業労働力減少に基づく影響を出來得る限り減少せしめ、農業生産を支障なく遂行せしむる爲め左の如き施設をなした爲しつゝあるのである。

(一) 農村労働力の綜合調整 以上で明らかなる如く、農村よりの計畫性なき労働力流出が無制限に続けられる場合には時局に必要な農業生産を維持擴充することが遂に不可能となることは明白である。だから、この際各地方の農業生産事情を考慮して畜力、機械力等をも併せ計畫的の労働力調整を行ひ、農村よりの軍需工業等に對する労働力供出に就いては労働力調整計畫に基づき計畫的ならしめんとしてゐるのである。即ち昭和十四年度追加豫算に計上して、地方經濟更生委員會、農會等をして農村労働力の調整に關する基礎的計畫を調査樹立せしめ、その計畫に基づいて諸般の労働力對策を綜合的ならしめ、又軍需工業に對する労働力供出を計畫的ならしめんとしてゐるのである。

(二) 勤勞奉仕班の設置 これは各町村に勤勞奉仕班を設置し、主として部落を單位として活動せしめ、應召農家の労働力不足を補ひ、以つて應召農家の生活安定を期し併せて生産力の維持を計らんとするものである。政府は昭和十二年度に八千六百三十一、昭和十三年度には九千九百八十九の町村に對し助成をなした。

(三) 共同作業の奨励 我が國の農村に於いて共同作業は決して新しいものではない。然し労働力減少に伴ひ

それを益普及徹底せしめ、労働能率の増進を計る必要があるので帝國農會以下各級農會を助成して共同作業の普及奨励を計つてゐる。現在農會が共同作業に就いて指導してゐる農家組合の数は十二萬一千百七十六に達してゐる。

(四) 集團的移動労働による勞力補給施設、勞力減少に伴つて、單に勤勞奉仕班の活動及び共同作業のみに依つては勞力補給に尙ほ不十分な場合があり、殊に平時に於いても農繁期に他町村或は他府縣より勞働力の補給を受けてゐた地方に於いては、その補給に關して特に施設する必要があるから、農繁期勞働力補給對策として各地方農村に於ける農繁期の差違を利用して相互に集團的に勞力の移動を行はしむるゝの施設である。

(五) 農業機械の移動配給調整施設、各種物資の使用消費は、甚だしい制限を受けることの止むを得ない状態となりつゝあるのであつて農業機械に就いても新設によつてその擴充を計ることが漸次困難となりつゝあるのである。本施設は既存の農業機械を充分に利用するため、その地域的偏在を調整し、利用の不十分なる個人利用のものを共同利用せしめ、又故障を充分に修理せしめることをなすものである。

(六) 農山漁村共同施設

(イ) 改良農具設置、農事實行組合等をして各種の改良農具を設備して共同利用をせしめんとするもの。

(ロ) 畜力利用機設置、畜力利用を充分ならしめるための利用機具の共同利用施設。

(ハ) 簡易小水力利用設備、小水力利用設備により農業動力を補給せんとするもの。

(ニ) 共同曳船施設、沿岸小型漁船用共同曳船を設け漁村に於ける勞力緩和に資せんとするもの。

(ホ) 養蠶共同施設、養蠶實行組合の行ふ共同施設に助成し養蠶勞力の緩和を圖らんとするもの。

(七) 農地の交換分合斡旋施設、我が國の各農家が耕作してゐる農地は一ヶ所に纏まつてゐることが少く甚だ分散してゐるため、勞力を浪費せしめ、又經營の改善を妨げること大なるものがある。今回政府は臨時租稅措置法を改正し、耕作を目的とする土地の所有權及び永小作權の交換を爲した場合に、登記に關し登録稅を免除することとし、農地の交換分合を促進せしめることとした。而してその免除は、市町村農地委員會等の斡旋したる交換分合に就いて行はれるものであるが、政府はこれら農地委員會等をして積極的に自作地又は小作地の交換分合を爲さしめることとし、その施設に對して助成することとした。

(八) 農耕馬補充及び借馬斡旋施設、農耕馬の徵用により畜力不足、自給肥料源の窮乏が少くないのであるが、その補給のため、道府縣又は各種團體等の馬の共同購入並びに借馬の斡旋施設を助成せんとするものである。

(九) 畜牛補充施設、事變に伴ひ牛の屠殺頭数は急激に増加し、爲めに畜力及び自給肥料源の不足を來たす虞れあるに鑑み、牛の増殖を促進し且つ畜牛の分布を適正ならしめんとするものである。

以上は政府の執りつゝある農業労働對策であるが、最後に申述べたいことは、農業生産維持擴充に對して大きな力となつてゐるところのものが農民の時局に對する自覺であるといふことである。

勞働力が減少した場合、各農家が生産方法の改善や發達を考慮することなく、舊來の農法に甘んじたり、又各農家がたゞ單に自家經濟のバランスのみを考慮して國家目的を忘れて了ふならば、勞働力減少は農業生産に對し更に大きな影響を與へずには置かなかつたであらう。然しながら村に入つて見よ、農民が繁忙を極める農繁期の時間を削いて應召農家をたすけ、又生産の維持、確保或は軍需品供出に關し如何に涙ぐましい努力を續けてゐるかを、農民は確かに無理をしてゐる。然しながら現在は國民の一人々々が無理をしなければならぬ時なのである。たゞその無理を農民にのみ強ひることは決して許されないのである。

百五十萬人、貨物八十萬噸と推定される。

二 實地調査の概要

調査 隧道

早瀬瀬戸海底の地質調査は名に負ふ急潮と頻繁な船舶の航行のため、到底普通に行はれる調査方法、即ち海面にポンツーンを浮べて之から海底に垂直ボーリングする方法、又は鐵道省が大瀬戸で施工してある海中に作業橋を固定し之から垂直ボーリングを行ふ方法は不可能であり、こゝに海峡を横断する調査隧道を掘つて地質その他の調査をする方法が最も適當であり、更に本工事に際してはこの調査隧道を水抜隧道として利用し得る得點があるので、斷然この方法を採用した。

そこで下關側は舊壇之浦町に深さ六十八米内徑五米、門司側は舊門司市雨久保に深さ五十六米内徑五米の堅坑を掘り、兩岸から高さ二・五米、巾二・二米の調査隧道を掘つて行つた。下關側の海底は龜裂の發達した玢岩、變質硯石統から、石灰岩、ホルンフェルス、複雑な接觸變質岩であつて數回斷層に遭遇したが、セメント注入法により水を防いで掘り進んだ。

門司側は火成岩、閃綠岩を通過してから硯石統に變り、石灰岩、ホルンフェルスの後は堅硬な硯石統が続いたが、三百二十二米附近は豫想通り斷層岩質剝落性の變質岩であり周到な處置によつて無事之も突破し、下關側から四一・三米、門司側から五九・七米で貫通したのである。

陸上 試錐

陸上の重要な箇所にも試錐を行つたが、その結果は下關側では前田、御裳川の敷地は軟弱な洪積層であり、敷地以外は硯石統に屬する頁岩又は砂岩で之等は火成岩との接觸により變質作用を受けホルンフェルス、硯質頁岩等となつてゐる。

門司側陸上隧道部にあたる附近は、變質作用を受けた硯石統、閃綠岩及び玢岩で、地表に近い部分は玢岩が風化して粘土状をなしてゐる部分もあるが、下關側に比し岩質や、良好と認められる。

地塊運動調査

トンネルを掘鑿するには地塊の運動の少いところをなければならぬので、昭和十二年十二月から陸地測量部に委嘱し、廣汎な地域に亘る三角測量と水準測量を行つた結果、關門附近は本州側、九州側とも四十年間に約十七厘ばかり北に水平移動をしてをり、上下動は本州側、九州側とも二厘ばかり同様に沈下してゐるので我が國の中では極めて地塊運動が緩く、トンネル開鑿の位置として適當であると認定された。

その他早瀬瀬戸の最深部は潜水艇によつて海底寫眞を撮影した

省營の關釜聯絡船が一日二往復乃至三往復、下關の岸壁に發着し、大連・天津・青島・基隆・南洋方面の定期船は門司側に發着してゐる。また貨物輸送では現在下關驛には一日約二十往復の貨物列車の發着があり、この中九州に渡る貨車は一回六輛乃至八輛積載の新送船によつて線路から線路へと聯絡されてゐる。

最近我が國の大陸や南洋方面との關係が密接となるに従つて、關門・博多・長崎の諸港や福岡の空港を経て海外と往來する旅客貨物の數は急激に増加し、また九州地方に於ける諸産業の發展と一千萬人近い人口の増加によつて、旅客貨物の動きは活潑を極めその往來の咽喉を扼する關門間の輸送數は急激な増加を示してゐる。試みに最近に於ける鐵道省の關門聯絡客貨の數を見んと

種別	昭和九年度	昭和十年度	昭和十一年度	昭和十二年度
旅客(往復)	二二七、八	一六六、二八	三三〇、〇	四〇七、三
貨車(同右)	六六、三輛	一〇七、三輛	一五七、〇	二〇七、〇

これ等の旅客は下關門司間の船車の乗機に大體五十分の時間を空費し、混雑が甚だし、いばかりでなく一日二萬個に餘る手小荷物、郵便物の短時間の積換作業はなかく容易でない。貨車輸送の激増は特に目立つてゐるが、昭和十三年十二月に入つてからは一日最大往復で一九六便といふレコードまで出し、現在の施設では取扱能力の限度に達した。この航送施設の擴張は、陸上に於いても海上に於いても極めて困難である。なほ航送貨車は輸生操車場、下關驛、小森江驛、大里操車場で四回の操車を要し多大の滞留時間を費して貨物輸送上の不利を招いてゐる。

トンネルの必要

こんな現状であるから關門聯絡線の新設は、行詰つた貨物輸送の打開策であつて産業開發上喫緊の施設である。貨車の操車回數を半減して約十時間の時間短縮を計り荷主に多大の便益を與へる上に、鐵道自體も之に

り、海底の岩石を採取して調査し、附近海峡の深淺も測量した。他方、關門地方を中心とする交通調査、經濟調査等を行ひ計畫並びに施工の萬全を期したのである。

三 計畫の概要

關門國道隧道の位置については (一) 早瀬瀬戸を横斷するもの (二) 下關市から小瀬戸を経て彦島に至り弟子待附近から小森江に渡るもの (現在鐵道隧道工事中の箇所) (三) 彦島の田ノ首附近から大里に渡るもの等が考へられたが、早瀬瀬戸を横斷する方がトンネルの延長が最も短く、地質も岩盤で工事も比較的容易であり工費も低廉と認められた。その上關門兩市を直接に連絡し又海峡を横斷する船舶交通を最も有効に吸收する事が出来るので早瀬瀬戸に位置を選定し實地調査に着手し豫期以上の結果を得たのである。

路線の形

路線は交通の現狀に鑑みて本州側では長府方面からと下關方面からとの二つの出入口を設けた。即ち長府側からのは下關市前田町の船積信號所附近で國道から分岐し、右手山麓から直ちにトンネルに入り百五十米半徑で舊壇之浦町御裳川口附近に至り、それから海面下約三十米乃至五十米の深さで海峡を横斷し九州側門司崎附近を通り、五百米半徑で右折し再び五百米半徑で左折して門司市壩

聯絡線の経路

關門トンネルの横斷地點は深さが比較的淺く、幅も狭く且つ前後の線路並びに停車場設備の關係なども考慮して略圖に示すやうに下

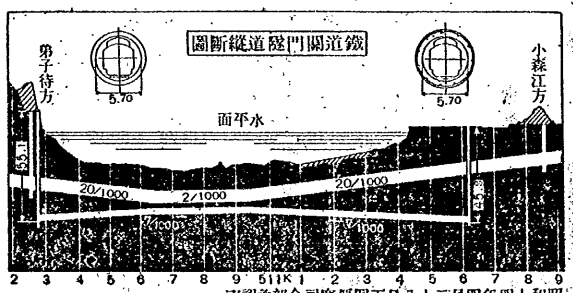
川町附近で地上に出で、既設修道路に連絡する。この延長三千四百七十六米うち隧道部三千六米である。

下關側からのは下關市阿彌陀寺町八幡宮附近で現在の國道から分れ、丸尾通の終端附近からトンネルに入り、御裳川附近で百米半徑で右折し長府側からの本路線と連絡する。この下關側からの分岐線は長府側から来る車線との平面交差を避けるため一部複線とし、トンネルによる立體交差とした。この分岐線の延長は千八百六十四米で、うち隧道部千八百八十四米である。

以上の本計畫路線の全延長は五千三百四十米で、隧道延長四千九百九十米、取付道路千五百五十米と云ふことになる。

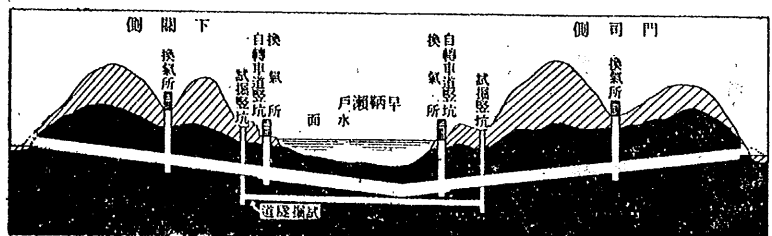
勾配

縦斷勾配は歐米海底トンネルの實例を見ると、歐洲では割合に緩やかで三三%乃至三六%程度が多い。アメリカでは多くは一方交通にしてゐる關係から上り、下りは自由に勾配の加減が出来るので下りを五%、上りは三三%乃至三七%と云ふやうにしてゐる。關門トンネルでは海底の部は大體三三% (我が國一般の國道規格) としたが、取付隧道で立體交差をする箇所、即ち下關側單線隧道 (一方交通) 下りの部分は四%に取つた。横斷勾配は〇.五%である。



關門彦島の弟子待と門司側小森江を結ぶ線を選んだ。新線路の總延長は六千七分、その中三

この聯絡線が開通した時は關門附近一帶の鐵道交通に一大變化を來すこととなるのである。

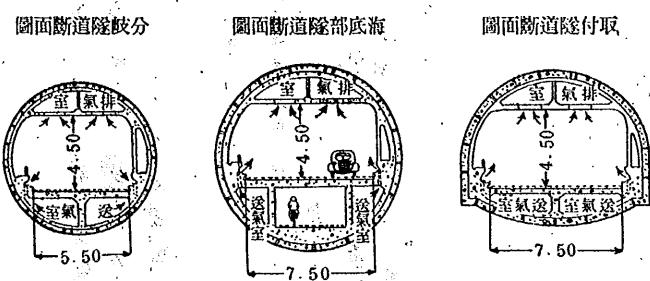


昭和四十五年八月十四日閣下要司部承認

五米有効高四・五米である。
 (三) 一方交通式(分岐隧道)の部分は圓形でその幅員は五・五米有効高四・五米である。
 海底部、取付隧道部、何れも断面の上下に換気用の所要面積を設けたことが、今迄の我が國道路隧道の断面と異つてゐる。
 取付道路と廣場
 取付道路は總延長千五百十米、二車線のもの幅員有効七・五米、一方交通部分有效六米で、隧道出入口には各廣場を設け車の混雑を避け車線は平面交叉を避け全部立體交叉とした。
 換気設備
 延長の長い自動車トンネルで最も考慮を要するのはトンネル内の換気である。トンネルの換気方法として今日行はれてゐるものには横断流動式(Transverse flow system)半横断流動式(Semi-transverse system)が主であるが、この

にも種々の工法があるが、關門トンネルは我が國で最初の海底トンネルであり、その長さも世界の首位を争ふ程長大で、而かも地質その他條件が悪いので相當の困難が伴ふのは免れない。従つて工事着手前に海底部分の深淺測量は勿論、ボーリングによる地質調査や彈性波式地質調査法といふ海底にダイナマイト爆發に依つて震動を起させその傳達の速度を利用して地質推定法をも用ひて入念な調査を行つた。いよく本工事に着手したのは昭和十二年九月で、先づ取りかゝつたのは本トンネルで無くて試掘トンネルである。之は俗に豆トンネルと呼ばれてゐるが、これは複雑な地質で掘鑿に非常な困難が伴ふ場合に極めて有利な方法であつて、本トンネルの下方に本トンネル掘鑿に一步先んじて掘り進むのである。その目的は、海底の地質を實際に確かめて本トンネル掘鑿の指針とし適確な工法を採つて過誤なからしめるといふのが主であるが、この試掘トンネルが先行するとその途中から本ト

トンネル断面の形状
 トンネルの横斷形狀は海底トンネルの部分と、取付隧道のうち往復交通式の部分と、一方交通式の部分との三部分に依つて異つてゐる。
 (一) 海底隧道の部分は水壓、土壓に對し最も有利な圓形とし、二段式往復交通式で上段を自動車専用、下段を自動車並びに歩行者の通路にあてた。上段の幅員は七・五米、有効高四・五米、下段は幅員四米、有効高二・五米である。
 この下段に自動車と歩行者の通路を設けたのは關門附近道路交通の實狀から特に考慮したもので、兩岸の堅坑内に設けられた昇降機によつて陸上の道路に連絡する。
 (二) 取付隧道の往復交通式部分は仰拱馬蹄型で車道幅員七



昭和四十五年八月十四日閣下要司部承認

で、トンネル掘鑿と共に關門附近の停車場その他の設備の大改良が必要となりその工事も着々と進められてゐる。先づ現在の下關驛は、列車の大部分が九州へ直通するので之を放棄し、小瀬戸海峽と彦島の埋立地に高架式の新驛を作り、驛本屋に近接して第二期工事として關釜聯絡線岸壁を作り聯絡の便を計る。その他諸設備の完備と相俟つて、本土對鮮滿支の表支關として辱しからぬ停車場となる筈である。
 門司側の大里驛は一部山陽線列車の終着驛となると共に山陽線と鹿兒島、日豊、長崎線との接続驛となるので大規模の改良工事を施してゐる。また貨物關係では幡生と大里の兩操車場で本州・九州・鮮滿相互間の貨車仕分を行ふこととなるのでこれもまた大擴張工事を行つてゐる。
 工事のあらまし
 海底トンネルは世界各國に數十を數へ掘鑿

Flow system) 縦断流動式 (Longitudinal flow system) の三種がある。
關門トンネルの換氣方式はこの一を採用した。この縦断流動式はアメリカのホーランド・トンネルに始めて採用され、非常に効果的であり、その後建設される自動車用トンネルは殆んどこの方式を採用してゐる。この換氣方法は一名配分式 (Distribution system) ともいはれる。即ち車道の下を新鮮な空気を導く管、送氣室に用ひ、天井の上部を排氣用の導管、排氣室として用ひる。空気は下から送入され上方に導かれる。即ち空気の流れは上向きである。故にこの方式を上向横断流動式換氣方式 (Upward transverse flow system) ともいつてゐる。

新鮮な空気が別の換氣取扱所に設けられた送風機から車道床下の導管に送り込まれ車道の両側に設けられた取入口から車道に吹き入れられる。この空気がトンネル内に存在する汚気を伴つてすぐ天井に設置された排氣孔を通して上部の排氣導管に出て行く。之は直ちに排氣取扱所の排氣機によつて外氣中に排出されるのである。この氣流の循環は絶えず新しい空気が車道の下部から上部に向つて流れてトンネル内の清掃作用をしてゐる。
空気の送入口と排出口がトンネルの全體に適當な間隔を置いて設けられ、送入口から入る新鮮な空気がそれに相應する排出口から汚氣その他を伴つて排出されるから、氣流が車道面上を大きな速度で

ンネルの方へ聯絡斜坑を穿ち、數箇所から同時に掘鑿を進めることが出来て工事の期間を著しく短縮し得ることや、本トンネルの工事中又は完成後の排水路として利用する等、種の利益があるのである。

この豆トンネルを掘るには、圖に示すやうに兩岸に直徑四米二十糎の堅坑を下し、その底から海底へ向つて上り勾配で掘り進むのである。この堅坑の底の方に大きな部屋を作つて總出力四〇馬力、六臺の揚水ポンプを据え付け相當の大湧水に對しても坑内が浸水するやうな危険のないやうになつてゐる。

この豆トンネル掘鑿の結果海底の地質は極めてはつきり分つた。弟子待側全關門方は始めは堅い凝灰岩と花崗岩で、堅坑も比較的短時日に完了した。トンネルも順調に進行したが、途中から砂岩、礫岩、頁岩、花崗岩等の錯綜した軟弱な斷層地帯に遭遇し相當の困難を伴つた。その都度セメント注入法(地盤にボーリングで孔を穿ち、セメント糊を壓力で

縦の方向に流れることがなく、又トンネル内任意の箇所にあける空気の送入口は容易に之れを調節することが出来るから、自動車から排出される瓦斯も迅速に稀薄にして除却することが出来る。

この方式は自動車用トンネルには理想的である。換氣所は下關門三ヶ所、門司側二ヶ所の計五ヶ所に設ける。
その他、照明、排水、火災報知及び消火設備、車検検査器、重量表示器など必要な諸設備をなすのである。

工事費及び工期

本隧道工事費は千七百萬圓十ヶ年繼續事業である。

四 工事の方法

海底トンネルの工事方法は海底の地質に應じ、また状況によつて各種の方法があるが、豆トンネル素掘り工法により、地質に應じてはセメント注入による石化法を應用し、豆トンネルは水抜隧道に利用して工事を進めるのである。

捲立は特に水密性の完璧を期するため、水面下は防漏の措置をした六耗鋼板を外皮とするコンクリート・セグメントを組立て鐵鋼相互は捲接し、その上に二段巻にコンクリート捲立をする。

五 關門國道隧道の特色

世界に水底道路トンネルは數多いが、悉く海底トンネルであつ

地盤に注入し硬化させる法)を採用して最後迄普通の素掘り工法で進んだのである。

小森江側(門司方)は大部分が花崗岩の風化地帯でトンネル工事に不利な地盤なので相當の困難を嘗めながら極めて慎重に掘鑿を進めてきたが、四五〇米附近から硬い花崗岩となつたので工事は著しく進捗、四月十六日には弟子待側と合せて一日一九米三〇糎といふレコードまで作り、晝夜兼行一氣に貫通へと導いたのである。この豆トンネルの延長は一、三二〇米、今回の貫通點は弟子待側から五七〇米の地點であつた。

次には本トンネルであるが、之は内徑七米の大きさで豆トンネルの二米五〇糎大に比して斷面も大きく水底にも接近してゐるため種々の困難が伴ひ豆トンネルとは比較にならない苦心を要する。これも豆トンネルと同じやうに兩岸の堅坑から海底へ向つて掘り進むのであるが、目下の工事進捗状態を見ると弟子待側は海底部分約三二〇米餘迄進行し、その中

て、本格的な海底トンネルとしては、關門トンネルが最初のものである。工事方法も素掘工法を採用したのは世界でも二度目である。隧道の太さは英國マシーレーン隧道の外徑一四・四一米に次いで第二位である。長さもマシーレーン隧道の四、六二九米に次ぎ第二位である。水面下の深さでは世界で一番深い所を通ることになる。

その特色の第一は一つの隧道断面で自動車道と自轉車、人道とが二階式になつてゐること、即ち、尤も有効に經濟的に斷面積を考慮してゐること、第二は一本の海底トンネルが三つの出入口を有し而かもトンネル内では自動車の平面交叉を絶対に無くし、圓滑に交通し得る様計畫された事で、尙ほ捲立にも新工夫がなされてゐる。

六 完成後の効果

關門國道隧道の完成は本州、九州の兩土を陸路によつて連絡する事となりトンネル開通後は一時間後に自動車二千五百臺、自轉車二千臺は通れる。通過時間も僅々五分で、而かも毎年數回に及ぶ暴風による交通杜絶の憂もなく、どんな時間にも連絡が出来る。その上、横斷船舶が著るしく減少するから國際航路である海峡の航行が極めて自由になる。また一朝有事の際にはトンネルは防空、防護室ともなり十數萬人をトンネル内に收容することが出来、國防上産業上將又行政上に於いて貢獻する處實に多大で、劃期的意義を有し、その完成の一日も速いことを祈るものである。

約一〇米だけは早コンクリートの捲立工事も終つて海底木トンネルが出来上つてゐる。また小森江側はその地質が到底普通の素掘工法に適しないので、水底トンネルによく使用されるシールド工法を採用することにした。これは鋼製圓筒形の構造で、之を地中に潜らせその作業室の中には壓搾空氣を送つて前方の開いた部分から押出して来る土砂や湧水を押へながら掘鑿し、掘鑿部分は直ちに鐵のセグメントで捲立てそれを押へとして強力なジャッキの力で少しづつ押し進めるもので、軟弱な地盤に對して安全な方法である。

このシールドは目下小森江の堅坑の底で組立を終り準備の完了を待つて近く海底へ向ひ活動を始め段取りになつてゐる。

順調に行けば昭和十六年の春には全線の仕事が完成する豫定であつて、その時こそ過去數十年來の夢が實現し西日本鐵道交通施設の一大強化が成り、我が交通史上永久に記念すべき日となるであらう。



日本海海戦の戦果と日露戦争

海軍省海軍軍事普及部

過ぐる日露戦役は、明治三十七年二月八日宣戦に先立ち、我が水雷艦隊が旅順港に泊露國艦隊に對して奇襲を執行、彼の戦艦二隻、裝甲巡洋艦一隻に雷撃を加へてその戰鬥力を喪失せしめたに始まり、爾來皇軍は陸に海に連戦連勝、翌三十八年五月二十七日日本海海戦の大捷によつて事實上その幕を閉じたのであつた。

この開戦すべき大小の海戦は必ずしも少しとしない。例へば海戦の發端に於いて機先を制した前記の水雷艦隊の旅順港に泊露國艦隊の奇襲並びに仁川沖の海戦、或ひは前後三回に互つて決行せられ、壯烈果敢を以てた敵艦隊を撃破したなど、わけても八月十日の海戦の如きは著名なるものである。いづれも制海權の獲得を目的とし、決戦に至る迄の準備行動であつて海戦史上に特筆大書されるべきものである。然しながら明治三十八年五月二十七日

日に於ける日本海海戦こそは、我が艦隊の全部を擧げて之に参加し皇國の興廢をこの一戦に賭けた乾坤一擲の大決戦であつて、我が聯合艦隊は奮戦數日、遂に露國艦隊を撃滅し曠古未有の戦果を收めたのである。

そも、日本海海戦の大捷は、その直前たる明治三十八年三月十日、奉天に於ける陸の一大決戦の輝やく戦果をいよ、決定的なるものとなし、敵の戦意を根本的に挫折せしめ、急轉直下、平和克服をもたらす要因となつたのである。露軍は彼の奉天の大會戦に惨敗して再び起つ能はざる程の致命的打撃を蒙つたとはいへ、尙ほバルチック艦隊の戦勝乃至浦鹽到着を期して、類勢挽回に一縷の望みを繋いでゐたのである。然るにバルチック艦隊は萬里遠征の辛酸遂に酬いられず、みじめにも日本海の濠府と消え失せて了つたのである。かくて露國の選ぶべき道は、もはや平和克服以外になつたこと

は當然であつた。

東郷元帥は後年或る人から「負けた時はどうなさる積りでありましたか。」と問はれた時、言下に、「敗けた時の事は考へなかつた。」と答へられたさうであるが、われわれは今萬一我が聯合艦隊が破れたとしたら果してどうなつたであらうか、或ひは破れないまでも五角の勝負に終り、敵艦隊の残勢力が浦鹽に遁入し得たとしたら果して戦局はどうなつたであらうかと靜かに思ひを巡らして見る時、バルチック艦隊撃滅の効果の絶大無限であつた事實を今更に痛感せざるを得ないのである。

それと同時に彼の「皇國の興廢此の一戦にあり各員一肝奮勵努力せよ。」との不朽の信託がいよ／＼千古不滅の光輝を放ち、萬世に互つて深遠なる意義を藏する所以を明確に了得し得るのである。

げに此の一戦、撃滅の効果は眞に皇國の興廢を一舉に決したものであつた。而かも永遠に皇國の隆運を決定し、約束したものであつた。

實に明治三十八年五月二十七日は、恰も百年前トラファルガー海戦の日に、英國の大帝國たるべき運命が決せられたるが如く、東洋の蕞爾たる島帝國日本が、一躍世

界の海國大日本と成り、こゝに日本民族開眼の契機は到來し、やがて躍進日本今日の素地を作つたのである。五月二十七日を以つて海軍記念日と定められた所以も茲に存するのであつて、實に海軍記念日たるのみならず、また我が國民の一大記念日と稱するに足るものである。

かやうに皇國の興廢を決したこの一戦は、また世界史上に新たなる一線を劃し、夙に太平洋時代の轉回をも示唆したのである。そして明治天皇の敎慮によつて着手せられた帝國海軍建設の大業は茲に完成せられ、我が海軍は、露國の海上勢力を東亞の海から一掃して二躍世界の六大海軍國に列するに至つた。

即ち、この時以來我が日本は東亞に於ける唯一の海軍國と成り、新興近代國家として世界の視野に大きく映るやうになつたのである。

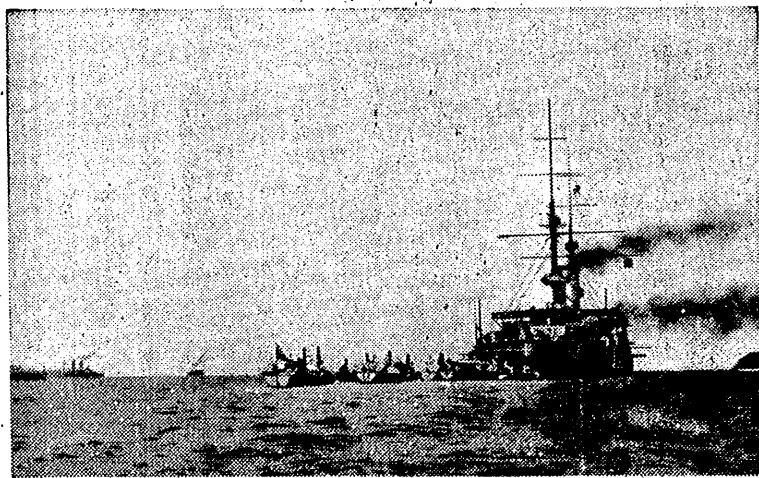
爾來三十四星霜、世界は絶えず治亂興亡の歴史をくり返しつつその形勢は幾變轉を見た。

この間、我が國はあらゆる世界の重大問題に關與して、發言權はますます／＼擴大強化され、國際的地位は躍進の一路を辿り、今日世界の三大海軍國としてまた世界一流の強國として不拔の地歩を占めるに至つたのである。

現に我が日本は東亞の安定勢力たるの責任に於いて、支那事變の處理、東亞新秩序の建設に邁進中であり、且つ日・獨・伊・滿・匈・西の列國を連ねる防共樞軸の重鎮として、世界の平和と人類の福祉に貢獻しつゝあるのである。惟ふに我が國の今日あるは、その因つて來たるところ極めて遠く、固より我が尊嚴なる國體の然らしむるところであるが、我が國の近代日本への發足が明治維新に始まり而して躍進日本のスタートが正に日露戦役、曠古未曾有の大捷を博したその時にあるといふことは間違なくいへる。

而かもこの一戦撃滅の戦果がかくまでに皇國の隆運を決定するに至つたことは、眞に驚異に値すべきことである。

戦史に明記されてゐる通り、この一大撃滅戦は、五月二十七日拂曉、我が哨艦信濃丸が三〇三地點に敵艦隊の北航するを發見したるに始まり、對馬海峡の南方より松島竹島附近に互れる約三百浬の大海面に於いて、翌二十八日日夜後迄二日間に跨り、晝夜連續各方面に戦はれたものであつて、その間彼我艦艇の砲火を交へたる合戦は大小十ヶ所に及んだのであるが、その決戦の決戦たる純



旗三艦並り各艦水電艇に對し出航命令せらる

— 明治三十八年五月二十七日 —

正の部分は僅かに會敵當初の三十分過ぎず爾後の戦闘は凡て追撃戦となつたのであつた。

即ち千古未曾有の大戦の火蓋が切つて落されてから、僅かに三十分にして勝敗の数が定まり、而してこの撃滅戦の輝やく戦果が、皇軍の大捷を以つて日露戦役の幕を閉ぢると同時に、皇國千年の運命を決定したのであつた。

これが一大驚異でなくて何であらうか。

然しながら當年東郷司令長官の幕僚たりし故秋山將軍は、後年に至り當時の戦況を説明した際、「されば海戦の決勝は僅かに三十分間にて獲得さるゝも、こゝに至らしむるには十年の戦備を要するものにて、即ち取りも直さず連綿十年の戦争と謂ふべきなり。この十年の經營の大戦争に於いて、皇軍が海に陸に連戦連勝し得たること皆是れ明治天皇陛下御威徳の致す所なり」と結言してゐるのである。

彼の三國干渉以來、全日本國民が老幼男女國を擧げて烈々たる義憤に燃え、克く臥薪嘗膽十年の忍苦に耐へ、比類なき舉國一致の精神を發揮し、偉大なる業績を成就したことは、戦勝の因を齎したものであつて、永く後代國民の勳鑑たるべきものである。當時國を擧げて

果を謳歌するにつけても、功の成るは成るの日に成るにあらず、必ず因つて來たる所ある所以を靜かに反省悟了する所がなければならぬ。僅かに三十分間に成し遂げられたるが如き偉大なる業績も仔細に之を檢討すれば、正しく十年の戦争、十年慘憺たる經營の結實に外ならぬものであつた。

この事は既往に於いてのみならず、永遠の將來に互つて眞理であるといへる。

今や支那事變は進展又進展、いよゝ新たな段階に突き進み東亞新秩序の建設漸くその緒に就き、ほのゝと新東亞の黎明を望むに至つたやうな心地がせらるゝといへ、前途は尙ほ遠遠、而かも我が日本を繞る國際情勢は樂觀を許さざるのみか、太平洋の波たち騒がんとする氣配さへ感知せらるゝのである。加ふるに歐洲の情勢は日に險惡を加へ、正に世界大戦の前夜を思はしむるものがあり、勢ひ東亞も亦新たなる渦亂に投ずること無きを保し難い形勢にあるといへる。

かくて三十四年前、日本海海戦の大捷が示唆した太平洋時代は、今正に眼前に展開されつゝあるのである。而して今や世界の形勢は、三十四年前とは全く一變した。一

公に奉じたる國民的努力の結晶は枚舉に遑がないが、その一例を示せば、當時の我が國の財政状態に於いて、戦前短年月の間に克く六六艦隊、即ち六戦艦・六裝甲巡洋艦その他を整備充實し得たことは、明らかに海戦の勝利を我に導いた要因であつた。

即ち、日本海海戦に於いて、敵の戦艦八隻・裝甲巡洋艦一隻・裝甲海防艦三隻に對して我も亦戦艦四隻・裝甲巡洋艦八隻(内日進)・春日は開戦後イタリより購入)計十二隻を主力として對抗し得たことこそが、先帝陛下の御威徳に基づける皇軍天佑の最大なるもの(故秋山將軍の言)であつた。

尙ほわれは「富士」・「八咫」の我が海軍最初の二戦艦が、畏くも明治天皇の御思召に於つて明治二十六年以降六年間毎年三十萬圓宛内廷の費を省いて、これを御下賜あらせられ、文武百僚亦同期間その俸給十分一を投入して、製艦費の補足をなさしめ給うた慘憺たる經營による所産であることを想起して今更に恐懼感激に堪へない次第である。

われは、三十四年前日本海海戦に於ける曠古未曾有の大捷を記念し、現前の支那事變に於ける輝かしき戦

度東亞の海から姿を消した露國海軍は、赤色海軍と名乗りを擧げて新生し再び日本海の對岸に現はれた。

往年日本に好意を示した英・米は今では我が日本を目標に、その海軍力を擴張強化しつゝひしつゝと我等の海、西太平洋に臨まんとしてゐる現狀である。

今日我が西太平洋に渡洋進取作戦を企圖しつゝあるものは、バルチック艦隊ならぬ英・米兩國の強大なる艦隊である。

かくの如く現下東亞の形勢を觀望する時三十四年前と、敵味方の分野をこそ異にすれ、護國の方式は不變であつて、さながら當年の形勢に彷彿たるものがあるといへる。

これ海洋國日本の本質上極めて當然のことであると謂はねばならぬ。即ち我が日本が如何にアジア大陸の奥地深く發展するも、日本國家の獨立、生存、發展を主張し、防衛せんが爲めには、陸に強大なる陸軍力、海に優勢なる海軍力を不可缺とし、而かも常に西太平洋の制海權確保を絶對的、基礎的、先行的條件とするのである。

茲に海軍記念日を迎へて、われは、今三十四年前、皇國の興廢を一戦に賭した日本海海戦當時にもまして重大危局に直面してゐるものであることを痛感するのである。

棗陽作戦の概要

陸軍省情報部

一 一般の情勢

先きに漢口西北方安陸方面を掃蕩、漢水の線に進出せるわが軍は、五月初めより更にその北方棗陽方面山地一帯に陣地を占領し、われに抵抗せんとする敵に對し攻撃作戦を開始した。

敵は第五戰區司令長官李宗仁麾下の覃連芳、劉汝明、張自忠、劉和鼎等の率ゐる十數ヶ師で、約半歳の日月を費して數線に互り堅固なる陣地を構築してゐた。

また三月には編成概ね充實せる湯恩伯軍も之に加はり兵力二十ヶ師を算し、その活動は漸次積極的となつた。

作戦地は大部分西部大別山中標高概ね千米内外の山岳重疊地帯で、西北部は河北省の平野である。中支は既に初夏の候、大陸の炎暑は參加將兵の勞苦を倍加した。

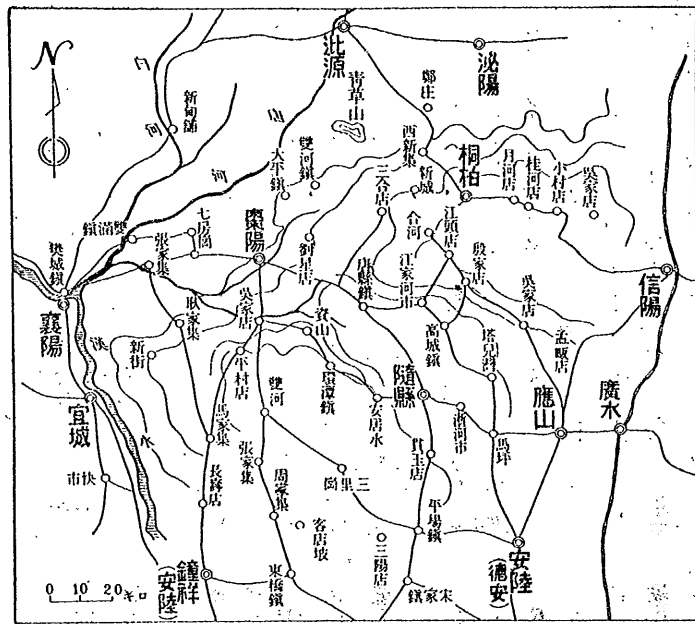
二 作戦經過

浙河市方面から前進した高野、川侯、加藤、澄田等の諸部隊は、五月一日浙河市北方山地に堅固なる陣地を占領中の敵第二三、第一七三師に對し攻撃を開始した。敵は續々増援部隊をこの正面に注入し頑強に抵抗した。わが第一線部隊は攻撃を續行すること六日間、敵の第四線陣地を突破し八日江頭店に、十一日合河附近、十二日には新城附近に達した。正面の敵は第二五師、第一七三師増援の第三三師、第四師、教導總隊等、湯恩伯軍の主力部隊と判斷される。

別に鈴木部隊は、信陽、桐柏、西新集道方向を前進、九日小村店附近に於いて敵第一四三師の一ヶ旅を撃破、西進を續行し十二日には西新集附近に進出した。

これ等の部隊と呼應し安陸方面(漢水方面)より前進を開始した柴田、山村、倉林及び古閑、南部、山田、近藤等の諸部隊は、五月五日長壽店、周家集東西の線に陣地を占領せる敵を撃破、追撃に移り、八日には早くも棗陽西方平坦地に、九日方向を東方に轉じ、棗陽北方大平鎮方面に進出、敵主

棗陽附近略圖



力の背後に殺到した。ために敵の第二三師第一八二師、

第九師第二三七師の後方機關はわが奇襲により潰滅的打撃を受けた。翌十日にはわが包圍陣より脱出せんとする敵第三五師、第三六師、第五六師、第八二師、第一二二師、第二三三師、第二三六師、第二三七師の大部隊を雙河鎮西北方地區に於いて潰亂に陥らしめ、偉大なる戦果を収めた。

別に安陸方向より續行中の加藤、綾部等の快速部隊は、敵の退路を遮断するの企圖を以つて急進し、九日午後程家河附近に於いて約五百の敵を殲滅し、唐河右岸に進出、十日更に白河を渡り新甸舖に達した。

五月十一、二日、各部隊は西新集、三合店、雙河鎮、鄭店の線に進出、敵を概ね包圍するの態勢を完了した。また北方に迂回せる快速部隊は十二日沈源(唐縣)に達し脱逸せんとする敵を更に包圍するに力め多大の戦果を収めた。

かくして約二週目に互る山地作戦もわが卓越せる統帥と將兵の絶大なる奮闘によつて多大の戦果を収めて、次期作戦の準備に移つた。

草の利用について

陸軍醫學校研究部

農村は日本精神と人口の増加及び貯蓄の源泉であるといへる。その農村が極度に疲弊したので、政府が種々の農村対策を講じた結果、多角経営の一部門として畜産農業がかなり發達し、それによつて再生した農家も相當に多いのである。しかし畜産農業の根幹である草についての理解が、指導者にも農民にも案外少いのは意外である。これは草について一貫した知識と體驗を持つてゐないからであると思はれるので、こゝに草についての概念を述べ、草を最も有効に利用する時局下農村対策の一案を發表する。

こととした。

◇我が國の農業の特性◇

我が國は古來農業國と誇つて来たが、國土は狭く、人口は増加し、最近では持たぬ國々といふ言葉さへ生れて来た。しかし仔細に研究すれば必ずしも持たざる國々と言ひ切るわけにもゆかない。我が國は雨量に富み、氣候溫和であるから動植物も他國に比を見ない程生育してゐる。我が内地と同じ七千萬の人口をもつドイツが、日本の三倍以上もある耕地を擁しながら、食料品を國外から仰いでゐる實情と較べると、水を利用する田作の有難さがわかる。林業、漁業、工業みな水を利用したものである。我が國の不利益な點はしばしば暴風雨の襲來することであるが、我々の祖先はこれを神の降した試練としてたゞかつて来た。神風の山來も、我が陸海軍の世界に冠たる所以の一半もこゝにある。

◇我が國に於ける草の利用◇

鎌倉時代から明治維新までの日本の人口は大體二千萬を上下し、しかも農耕地は現在と大した變りはなかつたので、國民は餘裕のある生活が出来た。その結果、泰平な徳川時代に深味のある教養が生れ、明治以後西歐文化を吸收し得る素地が出来たのであるが、其の餘裕のある反面には神の恵み深い贈物である草に對しても、

なかつても萌え出る世話や春の草
正秀

が名目となつた程、草の持つて居る強い力を認めながら、一方には佛教の影響、僻な國民性、農耕地の狭少などの理由から家畜も普く利用されないと共に、草の利用法も亦甚だ局限されたものであつた。

昭和九年から十一年までの内地に於ける平均肥料消費状況を見ると

販賣肥料	二億七千六百萬圓
自給肥料	三億二千八百萬圓
内譯	
堆肥	一億六千七百二十萬圓
綠肥	二千五百七十七萬圓
人糞尿	五千六百五十萬圓
その他	七千八百五十四萬圓

であつて、堆肥の六割を草とすると、綠肥と合せて約一億三千萬圓、全肥料の約二割が草から生れることになる。また野干草の利用は約二千萬圓と思はれるので、草の利用程度は大體一億五千萬圓と、春から秋へかけ家畜の食べるものであるといふことが出来る。

◇草は動物に絕對必要◇

動物にとつて草は絕對に必要なものである。草、即ち植物の葉綠素は空中から炭酸ガス、地中から水、窒素、灰分等を攝取し、太陽の光を受けて同化作用を営み、澱粉、脂肪、蛋白質等の蓄勢力のある物質即ち養分を作つて體內に貯藏する。これが動物に攝取されると、蓄勢力から再び動物力に變り、體温或ひは力源となるもので、換言すれば、草は人をはじめ、すべての動物の生存に缺くことの出来ない太陽のエネルギーを、いろいろな養分に変型、貯藏する機關である。植物以外にこの力はないのであるから「すべての動物は草から生れる」といふことが出来る。

◇草の營養價值◇

草の營養價值は、一般の専門書にあるやうな今日の營養學上から見た營養價值のほか、耕作物と自然草の性能上の差

異の方面からも見なければならぬ。

現在ではまだ科學的な説明がつかず、神祕として殘されてゐる點もあるが、野



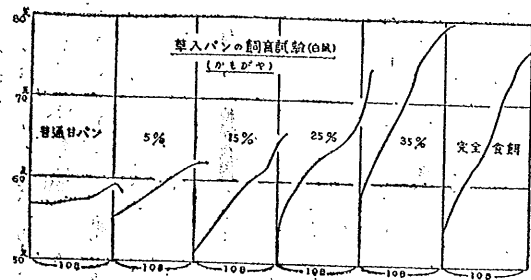
かまがや



ながさく

草には一種の力があり、個性がある。元來植物は、土地の影響を非常に多く受けるので、人の保護によつて育つて来た耕作植物は、人間に好まれる味、成分に偏つてゐて、自然草から見れば病的である。野草は適者生存の理法によつて自力で繁茂するのだから、骨もあれば味もあるといふことになる。美味求眞の食通

には都會の大根より田舎の大根が貴重
され、野生の獨活の香氣とあくが都會人
には強過ぎるといふのも、また薬用植物
は天然のものが栽培品よりよく効くとい
ふのもこの間の筋合ひを示す一例であ
る。要するに草の養分價值に關しては、



なほ研究すべき點が多いのである。
◇實驗は斯く教へる◇
 若草には蛋白質の含量が二〇パーセ
 ント以上に達し、極に穀物の二倍以上
 の蛋白質を持つ時期がある。イギリスで
 は農業が衰へた結果、穀物の輸入が増加
 したので、これを防止するため、蛋白質

飼料	乾物百分中			
	粗蛋白質	粗脂肪	粗炭水化物	粗纖維
最上カモガヤ	二四〇	七五	八八	一八八
良ナガハクサ	二二七	七四	九八	一八七
英國最良干草	一九二	四〇	六七	一四七
日本野干草	一〇三	三五	三九	四八
蘇	一三三	四七	五二	六三

とビタミンAが多く、しかも消化吸収
 の良い野草や牧草を火力で乾燥して一貫
 匁五十錢乃至五十五錢で賣つてゐるが、
 日本でもこんな良質の干草を得ることは
 決して困難ではない。
 昨年十二月東京駒場附近に野生して

ある「カモガヤ」と「ナガハクサ」を分析し
 て見たが、結果は左の通りであつた。
 この二種の干草を市販の甘藷麩に
 五%、一〇%、二五%、二〇%、二五%、
 三〇%、三五%、といふ割合に混ぜて白
 鼠に與へてみたところ、從來、草類は
 白鼠を使つての試験は出来ないとはいふ定
 説を裏切つて、美事に成功し、白鼠の體

素、及び鹽類を含み、人畜の養分資源と
 して十分利用し得るものである。假りに
 穀粉に代用するとすれば、小麦粉の四割
 まで代用出来ることが實驗によつて證明
 されてゐる。しかも値段も非常に安い。

◇干草は穀粉代用となる◇

現在我が國の農村は多くの勇士を戦地
 へ送つてゐるにも拘はらず農産物は増産
 しなくてはならない。この農村で優良干
 草を生産し、一方非常に草に恵まれなが
 ら肥料以外には殆んど棄てて顧みなかつ
 た「草」に、新たな利用價值を求めること
 こそ、最も國策に順應した草の利用法
 であると信ずる。

即ち緑肥の三分の一を干草にしただけ
 で九千四百萬圓の穀粉代用品が得られ
 る。これは、かりに米を比較の対象にと
 ると、米の内地生産額の四パーセントに
 當る。
 緑肥とする草は多くは半野生の野草で

あつて、穀物に優る養分價值のある時期
 があることは前述の通りである。近年ド
 イツでは野草の普及が目立つて行はれ
 その報告には「太陽のエネルギーを多量
 に吸収せよ」と書いてある。日本人も何
 等かの形で野生に近い植物を食べる必要
 があるのではなからうか。都人士の胃腸
 病などは草を食べれば癒るものである。
 優秀な畜産家は耕作草にも必ず野草を混
 ぜるものである。木樵茶のやうな良品の
 干草を收穫して置けば萬一不作不良の場
 合には食品に混ぜることも出来るのであ
 る。米作が良好であれば家畜の飼料とす
 る。

◇一石二鳥の草の利用◇

農家はこの干草の製造によつて、現金
 に困る田植前に二千八百萬圓の現金を廻
 ることが出来る。又二番刈、三番刈、四
 番刈と九月末までは適時收穫を見られ
 る。ある農村で一人の農夫が風味を出

さうと妻と相談し、先づ主人が

見渡せば背戸の菜の花盛り

とやつて妻に下の句を求めたところ、妻は

丁度その頃飯米はなし

とつけた。主人が立腹すると、妻は「これ

が苦(句)にならなくてどんな句があり

ませう。」と云つたといふ話があるが、お

よそどんな利用更生の方法も、その資源

が農村にないもの、または回収期限の

長期なもので農家の現金が要るときに間

に合はないものはその價值に乏しい。

草は野に、山に、川に繁茂し、生草の

まゝで家畜を養へ、肥料として秋の收穫

を約束してあるばかりでなく、干草の製

造は短時日の勞作によつて七ヶ月に互つ

て農家の現金収入となり、更に冬の家畜

を護るのである。

一面我が國の食糧問題解決の一助とも

なり、他面農村問題解決の鍵を與へる一

石二鳥の案とすれば、我々は神から恵ま

れた「草」の利用に努めねばならない。



獨伊同盟成る

外務省情報部

去る五月六、七兩日に互つて行はれた、イタリアのミラノに於けるリッペントロップ獨外相とチアノ伊外相との會談に於いて意見の一致を見た獨伊樞軸の強化は二十二日、ベルリンに於いて、兩國全權委員たるリッペントロップ、チアノ兩外相によつて調印された『ドイツ及びイタリア間の友好同盟條約』として發表された。

即ち、同條約の前文に記されてゐるが如く、『獨伊兩國は、兩國の間に共同にして且つ永久に確定された綱領によつて、相互の援助と支持に對する確實な連鎖が結ばれた後、兩國政府はその共調及び目的に於いて、既に以前から意見が一致して居り、兩國の利益の促進並びに歐洲に於ける平和の確保の爲めに有效であると證明された政策を改めて

承認し、共通な世界觀及び利害關係の總括的な連帶性によつて、固く相互に結合せられ、而してドイツ國民及びイタリア國民は、將來に於いても相並んで力を合はせて、その生存區域の確保と平和の維持の爲めに努力することを決意して、獨伊兩國は既に歴史に示された道に従ひ、不安と破壊との世界の眞只中に、歐洲文化の根柢を確保することに役立つことを欲し、これ等の原則を確定せんがため』に締結されたものが、この同盟條約である。

二

獨伊同盟條約の内容は、上述の前文と左記の七箇條の本文から成つてゐる。

第一條 兩締約國は絶えず接觸を保ち總て共同の利益若しくは歐洲全體の情勢に關する問題に付了解を遂ぐべし

第二條 兩締約國の共同利益が何等かの國際的事件により脅かされたる場合兩締約國は共同利益の確保の爲め、各指圖に付直に協議すべし

締約國の一方の安全若しくは其の他の重大なる利益が外部より脅かされたる場合他の締約國は此の脅威を排除する爲右締約國に對し全力を以て政治外交上の支持を與ふべし

第三條 兩締約國の願望及期待に反し締約國の一方が他の一又は多數の國家と戦ふに至りたる場合他の締約國は同盟國として直に右締約國の側に立ち陸海空軍の全力を以て之を支持すべし

第四條 有事の際第三條所定の同盟義務の迅速なる履行を期する爲兩國政府は軍事的及戰時經濟的領域に於ける協力を強化すべし

同様に兩國政府は本條約規定の實施に必要な他の措置に付ても絶えず相互に諒解を遂ぐべし

兩國政府は本條第一項及第二項に掲ぐる目的の爲常置委員會を組織すべし。常置委員會は兩國外務大臣の指揮に屬す

第五條 兩締約國は共同に戰爭を遂行せる場合休戦及講和は相互の完全なる一致に依りてのみ之を行ふことを約す

第六條 兩締約國は其の友邦國に對する共同の關係が有する意義を意識し將來に於ても右關係を維持し兩締約國と右友邦國とを結合する一致せる利益に應じ右關係を強壯に發展せしむるの決意をなせり

第七條 本條約は署名と共に效力を發生す。兩締約國は其の最初の有効期間を十年と確定するに一致せり。本條約の協力延長に付ては有効期間の經過前題宜諒解を遂ぐべし

三

右條約の調印が終るや、獨伊兩相は調印式場からラヂオを通じて、この同盟條約は兩國間の政治的並びに軍事的不可分關係を一層強化し、兩國民の堅き團結の精神を中外に闡明したものであること、及び、若し民主主義諸國が獨伊兩國を包圍せんとして複雑にして效力の不確實な諸協定によつて戰爭へ突進せんとするならば、この條約は凡ゆる挑戰に對する斷乎たる答へとならうといふ力強い聲明を放送したのであつた。

また、ベルリンの諸新聞は、『外交・軍事・戰時經濟の各領域に於ける完全なる協力を何等の留保もなく定めたとこ

るの本條約は、獨伊兩國の運命共同體を表現するもので、共通の世界觀を基礎とするものである。從來、獨伊の自然的生活意思が強化されるに従ひ、英佛の妨害が強められたが、獨伊は歐洲の生命發展に對する斯やうな英佛の妨害挑發を忍びつゝ、歐洲平和の維持に貢獻して來たが、英佛の獨伊權軸に對する策謀が益々盛んとなるに及んで、獨伊は平和維持の爲めに本同盟を結ぶに至つたものであつた。この同盟條約は、權軸の一方を攻撃すれば同時に他の一方の斷乎たる反擊に遭遇すべきことを世界に示すと共に、英佛に對して、權軸兩國の聲明の必然的發展を拒むべからず、寧ろその有害な包圍政策を拋棄すべしと呼掛けるものである』と論じて英佛に警告してゐる。

なほ、イタリーのジルナル・レイタリア紙のガイダ主筆は『同盟條約は何等の留保なしに締結されたもので民主主義國家間のそれとは比較にならぬ。英佛が之を恐れるのも正にその爲めである。然し、獨伊兩國はこの同盟により歐洲に新しい力の均衡を再建し、英佛に協調への最後の機會を提供した。我々は敢へて言ふ、全體主義の國家は民主主義諸國よりも強力である。然し我等は彼等の力を輕蔑は

しない。ヴェルサイユ條約から釋放された新しい歐洲を建設しつゝある獨伊は、英佛に要求を提出するが、他國とは無關係である。依つて他國は無用の容喙をすることにより問題を複雑にすることを避くべきである。』と述べて、同盟の成立が獨伊の英佛に對する最後の勸誘であることを指摘してゐる。

四

斯くの如き強力な獨伊の軍事同盟が成立したことは、英佛を初め全歐洲に對して大きな衝動を與へた。英國に於いては、獨伊權軸政策の當然の歸結で既存の事實を文書の形式にしたものに過ぎず、今さら驚くには當らぬといふ態度を示してゐるもの、これによつて獨伊の離間は全く不可能となつたことを認め、獨伊同盟の公表に對抗して急速に英ソ交渉を妥結に導くことが必要であること、を力説し、この同盟が攻撃的性質を有し、獨伊が共同して組織的に戰爭準備に邁進してゐることを指摘してゐるものが多い。殊に、マンチェスター・ガーディアン紙が、英國としても獨伊權軸側の陣營が確立した上は、平和戰線結成に

邁進すべきで、日本・ブルガリア・スペインの諸國が獨伊權軸の陣營に走るのを阻止する爲めには、獨伊同盟以上の強力な同盟を結成するのが捷徑であると論じてゐる。

更にチェンバレン首相は二十四日の下院に於いて、獨伊同盟條約に言及して、同盟條約は發表された條文から見れば、一九三七年一月二日の地中海の現状維持に關するイタリーの宣言及び一九三八年四月十六日の英伊協定により再確認されたイタリー政府の負ふところの義務事項と矛盾するが如き規定は見當らないと述べたことが注目されてゐる。

五

フランスに於ける反響は、同盟條約は防衛を目的とする消極的のものではなく、漠然たる生存權の獲得を目的とする行動をも正常化する積極性を帯びて居り、一方の締約國の欲求のために他の締約國は生存權を略して國ふことを豫約してゐるものであるとの特異性を指摘し、これに對して對獨防禦戰線の結成を急ぐべしと主張する議論が強く、英ソ交渉の停頓を打開せよと主張するものもあつ

た。

なほ、中立國であるスイスに於いては、同盟條約の締結は獨伊關係が權軸からプロクに發展したことに意義があるとし、過般ムツリー首相がトリノに於いて行つた演説は今回の同盟條約に結びつけて解釋すべきであると指摘し、またこの目的が判然としなところを危険がある。即ち生命線確保といふ意味が深長で、防禦的であるのか主戰的であるのかといふ問題の研究が必要であると警戒的の批評も下してゐる。

また、米國に於いては比較的冷靜に迎へ、同盟によつて得たところの心理的效果は別として、大體に於いて從來の權軸關係を成文化したものであると見てゐるが、ニューヨーク・タイムズ紙は、列國は同盟を條約の文面通りに取つて方針を立てることが賢明であつて、今後自國に都合の好い解釋をする餘地が無いやうになつたと論じてゐる。

六

獨伊同盟條約の調印に對して、帝國政府は二十二日、獨伊兩國政府に對して、日本政府は世界的意義ある獨伊兩

新東亞讀本

總目次

- 一、東亞百年小史 (第一二九號) 京都府立大各學部教授 文學博士 矢野仁一
- 二、事變と中國共產黨 (第一三〇號) 東亞經濟調查局 雪竹 榮
- 三、法幣の話 (第一三一號) 支那經濟研究所 支那經濟所長 土屋計左右
- 四、支那人物素描 (第一三二號) 同盟通信社東亞部長 橫田 實
- 五、東亞資源政策小論 (第一三三號) 東亞研究所 大上末廣
- 六、文化協力の諸機關を語る (第一三四號) 外務省文化事務局 米内山 庸夫
- 七、三民主義と新民主主義 (第一三五號) 新東亞教育院 法學博士 三枝茂智
- 八、支那の民情と民族性 (一三六號と一三七號) 在北京 村上知行
- 九、滿洲帝國協和會とは何か (支那の豫想) 滿洲帝國協和會 中央本部部長 齋 輝 周

◇東亞新秩序の諸論については都合によりとります。
◇本書の内容は、政府の解釋と全面的には一致しない部分もあり得るものと認容
ありまし。

内閣情報部編輯

國家の友好同盟に對して遙かに祝意を表する旨の祝電を送つたのであるが、更に平沼總理大臣は、同盟の締結を見たることは、現在の國際情勢に處し世界平和確保の見地から友邦として欣幸とするところであり、我が國として世界平和のため、いよく獨伊兩國との緊密なる連携を保持し、三國關係を益々密接鞏固ならしむることを期する旨を聲明したのである。

また、外務省情報部長も、「本條約の成立により樞軸政策の運用の上に大なる進歩を見るに至つたといふことが出来る。なほまた、同樞軸の脆弱性を云々するが如き惡意の宣傳はこれにより全く地を拂ふこととなるであらう。以上は歐洲の將來に重要な關係を有するものであつて、本條約は歐洲現下の危機に際し必ずや世界の平和と進運に貢獻するところ極めて大なるものがあると信ずる。」と述べ、さらに「防共の盟邦たる獨伊兩國が本條約の締結により其の關係を全面的に完備し強固なる陣形を造るに至つたことは帝國として欣幸に堪へざるどころである。この意味に於いて吾人は本同盟成立に對し祝意を表するものである。」といふ談話を發表して、獨伊兩國を慶祝したのである。

寫眞週報

五月三十一日發行
第六十七號

目次

- ☆時局下の學生生活 全國民の精力を擧げて興亞建設に邁進せねばならぬ今、學生は、つたひ何を為へ、何をし、何んな生活をしてゐるだらうか。東京帝國大學の一學生の生活をひらひらあけてその一斑を窺つてみよう。
- ☆全國學生生徒御親閱
- ☆爆撃は續く わが無敵空軍の威力に比べて敵空軍の現状はどうであらうか。
- ☆J.O.A.K.の新放送室見學
- ☆日光の鮎釣り
- ☆海外通信
- ☆讀者のカメラ

内閣情報部編輯
定價 十錢



支那の民情と民族性 (下)

村上知行

前號では中國人の基本的な民族性としての保守性と、その反動と、兩者を繋ぐ忍耐とについてひとわり述べた。よつて以下はこれ等の基本的性格より派生したその他の特性について漫話を試みようと思ふ。

中國人の忍耐の中から、私は先づ、中國人の驚くべき『常識』と、『底流的叛逆心』と『老翁』と、『無關心』と、此の四つの特徴が直接に生れて來てゐると思ふ。

忍氣留財、受氣得福(忍へば財を獲し福を受く) 忍一時之氣、免百日之憂(一時を忍べば百日の憂ひを免かる) 大人不責小人過(大人は小人の過ちを責めず)

かうした忍耐そのものを讃歌した俗諺を拾つてみたらば、全中國では恐らく夥しい數にのぼるであらう

が、結局それは彼等中國民の間に忍耐が如何に常識化されてゐるかを反映してゐる。中國人の常識は忍耐を中心として發達した。しかし此の忍耐の底には私の所謂『底流的叛逆心』が潜んでゐることを忘れてはならない。『只要記、不要氣』——たゞ記憶せよ、怒る可らず——といふ俗諺に仄めかされた執拗な怨み——または『敢怒不敢言』——敢へて怒れど敢へて言はず——といふもう一つの俗諺に氣味悪いまでに露出してゐる陰性の呪ひ——それ等は孰れも『底流的叛逆心』であり、それが機に應じて、保守的な中國人を驅り出し反動的行爲に出でしめるのだ。橋樑氏はかゝる中國人の性質を捉へて『柔順の不柔順』と言つてゐるが、誠に巧みな表現だと思ふ。

彼等は從順の中に驚くべき剛情を發揮する。世界一の從順な農民は忽然として世界一の暴徒と變化し得る。

俗てあとの二つ、『無關心』と『老翁』とは互に深く關聯し合ふものだ。そして、往々にしてそれはまた二つが合して一となつてゐる。無關心の裏に老翁が潜む。私は今此處で先づ林語堂の『我國土、我國民』の中から『無關心』に關する一節を抜萃してみよう。

『個人の權利に法律の保護が加へられてゐない社會では、無關心であることが常に安全であつて、そこには西歐人の容易に呑み込まない興味ある一面があるのである。私は無關心は中國人固有の特性ではなく、特殊事情の下に發達した古い世の分別によつて深く教へ込まれた教養の意識的な所産であると思つてゐる。…英人が獨逸に氣を配るやうに中國人は無關心に氣を配る。といふのは、たゞひとりで遠く離れて些かたりとも冒險を試みる個人には、政治の天候が常に不吉の前途を多少とももたらすからだ。換言すれば、無關心は中國に於いては明らかに生存價値をもつものである。中國の青年と雖

も、外國の青年なみに公事を思ふ心はある。そして熱烈な連中は他の國の人同様、公事に盡す欲求をも示す。しかしそれも凡そ二十五歳から三十代までの間のことで、總て彼等はみな賢くなる(我等中國人の言葉で言ふならば『學乖了』なのだ)。かくして彼等の穩健と文化に隨分寄與するところの無關心を慮り得るのである。ある者はそれを生れつきの分別で知り、また他の者は二度手を燒いて悟る。老人共はあぶな氣なくやつてゐるが、それは彼等老人が、個人の權利が保障されて居らず、一度でも手を燒いたが最後したゝか損をしなければならぬ社會に處してゐる間に、無關心の利益を學んだからである。それ故に無關心の生存價値とは、個人の權利の保護なく、公共の事、我々中國人の所謂『閑事』に干渉し過ぎる者は甚だ危ないといふ事實に存するのである。』

林語堂は此處で『閑事』を單に公共のことと言ひなしてゐるけれども、中國人の『閑事』はもつと意味が廣い。公共の事は勿論、他人に關する事もさうなのだ。換言すれば自己の切實な問題以外はみな閑事である。林語堂が中國人の性格を云々して本を書いたのなどは最



なる著作にも優る、彼の傑作であらう。何故ならば閑事に干ることの恐ろしい祟りを彼は身を以つて證したから。日本人が最も頻繁に使ふ言葉は『馬鹿野郎』といふ言葉だ。特に大陸に來た君子連中がさうらしい。その證據には、今北京中の中國人で『馬鹿野郎』を知らぬものはな

も代表的な閑事に對する干渉の仕方であつて、それがたれとどうとらう中國からオツ抛り出されてしまつた。此の一事實は彼の如何

い。もつとも發音が正確でないために『化野郎』と聞えはするが、兎に角北京の日本語は『馬鹿野郎』なる一語からして先づ普及して行くらしい。丁度日本人の『馬鹿野郎』と同じやうに、不斷に中國人の口を衝いて出る言葉は『別管閑事』だ。日本人ならば『馬鹿野郎』と言ふであらう場合の大半を、中國人は『別管閑事』で片づけてゐる。直譯すれば『いらぬお接介をするな』といふ意味であるが、今少し深く考へてみれば『無關心なれ』と譯してゐるやうなものだ。それ程中國人は自己に對しても他人に對しても無關心ならんことに、關心を持つてゐるのである。中華全土を通じて最も普及してゐる諺は無關心を強調したものである。『別管閑事』といふ殺風景な言葉を、詩的に、教訓的に表現したものである。それは即ち左の一句だ。
 各掃自己門前雪
 休管他人瓦上霜
 (各々自家門前の雪を掃け。他家の屋根の上の霜などには構ふな。)
 日本人にだつて、かうした氣持が萬更ない譯ではな

い。『もの言へば、唇寒し秋の風』など、さうであるけれど、しかし日本人は所詮中國人のやうに永い歴史と文化と訓練とを経たもので、それに徹底し得ない。確かに中國の永い歴史と、複雑な文化と、社會的訓練とは、中國人をして容易に無關心ならしめるやうだ。元來人間といふものは、呼吸のある限り、士偶のやうに無關心ではなれぬものである。無關心であるがためには、他の何事かに關心してゐなければならぬ。外のことには無關心でゐようと思つたら、内のことに關心してゐなければならぬ。中國の歴史、文化、訓練は、中國人に對し無關心であるがための關心を持たせるために、偉大な寶庫を提供してゐる。中國人は此の寶庫の中に耽溺することによつて、容易に他の一切に無關心であり得る。たとへば清朝の學者の態度を見るがいい。彼等は彼等の時代に厲、慘酷な筆禍事件、中國の言葉で言ふ『文字之獄』が興るのを見てお互に『別管閑事』を嘯き合ひ、當世の一切には眼を限り、口を緘した。經世致用の學問は悉く擲つてしまひ、考證學の分野に逃避して禍ひから遠ざかつた。さもない者は小説だの戯曲の世界に分



次に私
 は中國人の『老
 翁に就
 姑いての林
 語堂の言
 葉を引用
 しよう。
 『中國
 人の特徴
 の最も著
 るしいも
 のは老翁
 (これにま

け入つて、俗文學の花を咲かせた。だからして林語堂も無關心を以つて、中國人の『穩健と文化』とに随分寄與するものだと言つたのである。

さる言葉がないのでと名づけねばならぬものである。老翁は人生の運命を知り、利害の打算に長じ、物事に冷淡であつて進歩を懐疑するものである。最も善いところで老翁は穩健と氣立てのやさしさになる。そして多くの娘達をして老人を夫に選ばせる。人生に價値あるものがあるとすれば、それは親切だと教へるものがあるからだ。中國人が此の見方に到達したのは、宗教的是認によつてでなく、人生の深い觀察と、有爲轉變の知識からである。

詰るところ、中國人の老翁とは、睿智の一種なのである。蒙古人その他の野蠻人に見らるゝが如き狡猾と、中國人の老翁とを比較するならば、前者は泥に投げ出された頭石であり、後者は紅錦の上に安置された玉である。キリストも『汝等萬の如く柔和なれ』の如く、憐れなれ』と教訓してゐるが、若し此の教訓をそのまま實現したならば、中國人の老翁となつてしまふ。林語堂も此の老翁を『中國人の智慧の最高の所産』と言つた。つまり睿智の一種であることは疑へない。彼はまた續けて曰く『この老翁は、最悪の場合には、理想と行動とを否定する。改革の

希望を破砕し、努力の無用を嘲笑して、理想と行動を不可能にする。それは人間の行動をすべて消化器官や、單なる生物學的必要の段階に引下げる不思議な手段を持つ。』

睿智としてのかやうな老翁は、先づ中國人を徹底した現世主義者たらしめた。彼等にとつては現世が總てである。現世以外は零である。勿論彼等とても『人は麵麩のみにて生くるものに非ず』といふことを知つてゐる。だが、それもキリスト流儀には考へない。神の口より出づる凡ての言葉によつて……』とは考へず、麩麩以外にも尙ほ現世生活を充實し、愉快にしてくれるものがあるかと考へるのだ。またキリストは、惡魔から此の世の總ての王國と、その光榮を與へようと囁やかれた時、首を横につた。同じやうに首を横につた者が中國にもある。許山がその人だ。彼は古の『運天子』たる堯から天下を譲らうとされた時、そんな物は眞平だと稱して箕山といふ所に逃げてしまつた。だがそれもキリストのやうな考へから出發したものではなく、單に天下を讓られたところで現世の生活が面白くなる譯のものでもない。と達觀してゐ



たからである。然らば彼はどんな所に現世生活の興味を發見したかといふに、極端な簡易生活、極端な無關心の中に於いてであつた。『唐に許山といひつる人は、更に身に隨へる財をもなくて、水をも、手にして捧げて飲みけるを見たり、ひさこといふものを、人の得させたりければ、ある時木の枝に懸けたりければ、風に吹かれて鳴りけるを、かし

がまして棄てつ。また手にむすびてぞ、水も飲みける。いかばかり心の中すしかりけむ』

かう『つれづれ』草の中に描かれたやうな、高士的な生活の中に於いてである。 偕て許山は中國の言葉で言ふ『賢人』の代表的なものであつたから、かうした簡素に趨り得たけれど、『賢人』ならざる人物に在つては睿智としての老翁の結果なる現世主義が、往々にして極端に傾き、鼻持ちならぬものになつてしまふ。よくローマ皇帝のネロに對比される隋の煬帝などが、恐らくその代表的な一人であらう。煬帝はネロに較べてずつと偉大であるが、誰かに賢人でなければ高士でもなかつた。彼は現世の享樂を追求してゐるうちに、生半弱な現世そのもののみを以つてしては満足してゐられなくなつた。たとへば建築の如き、あり來りのものでは、如何に豪華を極めてゐても面白くないので到頭『迷樓』といふものを築いた。西洋に『Labyrinth』といふ言葉があつて、日本ではこれを日本固の有語たる『八幡の籤』とも譯し兼ね、『迷宮』といふ新語を以つて當ててゐるが、丁度この Labyrinth にそっくりを

のまゝな言葉として、中国には『迷樓』といふ言葉があり、それを築いたのは乃ち場帝だつたのである。唐の僞僞が著した『迷樓記』によると、それは數萬の人力を役し、國庫を虚しくして成つたもので、樓閣林立し、幽房あり曲室あり、人一度び誤つてその中に踏み入れれば終日迷つて尙ほ出ることが出来なかつたといふ。場帝はその中に良家の子女數千人を收容して日夜極彩色的な現世の歡樂に耽つた。

★ ★

老翁を母胎として生れて來た中國人の根の深い現世主義は、彼等に大陸的な『落着き』を興へる。中國の諺に『笨鳥先飛』といふのが、愚かな鳥が先に飛び立つといふ意味であつて、『落着き』は『無關心』と共に、中國人の高き教養の成果なのである。そして此の『落着き』の背後に『保守性』が潜んでゐることは言ふまでもない。しかし單に『保守性』のみでは此の『落着き』はあり得ず、それには當然、教養が必要である。教養なきものは如何な中國人でも『落着き』がなく、『笨鳥』になつてし

まふ。中国に於いて新らしいものに先づ飛びつくのは、教養なく、同時に教養を準備するだけの手段を持たなかつた貧しい愚人である。過去に於けるその實例を求むるならばキリスト教の傳道である。キリスト教が中国に新らしい道入つて來た時、先づこれに飛びついたのは貧しい無頼漢であつた。『笨鳥』であつた。

今日、事變下の日本に在つては支那語熱が盛んで、我も我もと支那語に志すやうだが、さうした現象を見て、私は中國人が必ず『笨鳥先飛』と咳いてゐるだらうことを思ひ、微笑を禁ずることが出来ない。

中國人は教養が深ければ深いだけ『笨鳥』ならざるやうに警戒する。中國人が物の言ひ方に注意するのめかやうな警戒の結果、習慣づけられたものであるかも知れない。特に相手に取つて不利な事、またはその感情を損ふやうなことを言はなければならぬ場合、彼等は實にまはりくどい言ひまはし方をする。外國人、特に日本人は此の特徴を屢々諷解して、中國人を憎むべき嘘吐きだと非難するが、これは非難する方が『笨鳥』なのである。たと

へばある男がある女に惚れて結婚を申込んだ場合、その女は男を嫌つてゐたとする。しかし女は、『妾はあんたが嫌ひです』とは言はず、『實は許嫁がありますから……』とか何とか、嘘を言ふ。中國人の嘘の大部分は大體かうした性質のものであつて、それは中國の社會に於いては禮儀であり、交際術である。何故なら、若し率直に『あんたが嫌ひです』と言へば、相手の『面子』、即ち『顔』を潰してしまふ。それを潰すまいがために言ふ嘘であつてみれば、立派な禮儀ではないか。

日本人は支那人の『面子』の問題を何か深奥な譯の分らないものやうに言ふけれど、かういふ點からそれを考へて行けば造作なく分ることであり、我々が使ひつけてゐる『顔』とか『體面』とかいふ言葉と何等異つてはゐないのである。たゞ中國人の場合ではそれが相手と自己との相互の關係に於いて強く主張されてゐるだけだ。即ち自分の『面子』と共に相手の『面子』も充分に重んじ、自分の『面子』を立てんがために相手の『面子』を踏み潰すといふが如き無作法は絶対にしないだけである。日本人はよく相手に對して『今更體面などに拘はらずとも……』とよく

言ふけれど、これは中國人には合點出来ない言葉である。

嘗て中國のある要人が、私の所に物を頼みに來たことがある。その際、用を終つて歸りがけに、彼氏は、『私が嘗て×××の代表として日本に参ります時、×××がだしぬけに、キリスト曰く汝の右手のなせし事を汝の左手に知らしむべからずと獨り語のやうに呟きましたよ。』

と語つた。×××が彼氏にさう言つたのは秘密にせよといふ注意だつたのであり、また彼氏がその故事を私に披露したのも、つまり、『秘密にお願ひする』と端的に言ひ出すのを避けたまでである。中國人のかうした會話の要領を解してゐる日本人は、私が見る所では甚だ寥々たるものである。丁度それと同じく、中國の民族性に就いても、奇怪な解釋をする人のみ多く、正鵠を得た人は少い。

★ ★ ★ 北京にて

露光量違いにより重複撮影

宮城編纂圖書だより

▼日本政治の基礎理念—藤澤雅夫(國民精神文化研究所)從來講せられてきた政治學は民主自由主義國から借用したものであり平面的政治現象を羅列的に整理したものに過ぎぬとし、日本來の政治の根本理念は祭政一致に發したる「まつりごと」であると説く。原理論、政策論、東亞經濟論の三章に分ち、諸外國の政治理念と對比して從横に論じてゐる。(月刊一六六頁、定價七角、送料九錢、發行所 振替東京八四六八〇)

▼新農村の建設(農林省經濟更生部編)一村一郷から百戸なり二百戸を計畫的に滿洲國に送出し、新農村を建設して滿洲國の健全なる生長に貢獻するとともに耕地面積の少い日本農村をも救はんとする分村運動は、今や全國を通じて盛んに行はれてゐる。本書はこの分村運動の全貌を明らかにし一般の理解に資するとともにその方針ともなるべく編まれたものである。(月刊五六頁、定價八十錢、發行所 振替東京八四六八〇)

▼東亞新秩序の建設と帝國海軍(海軍省海軍部編)

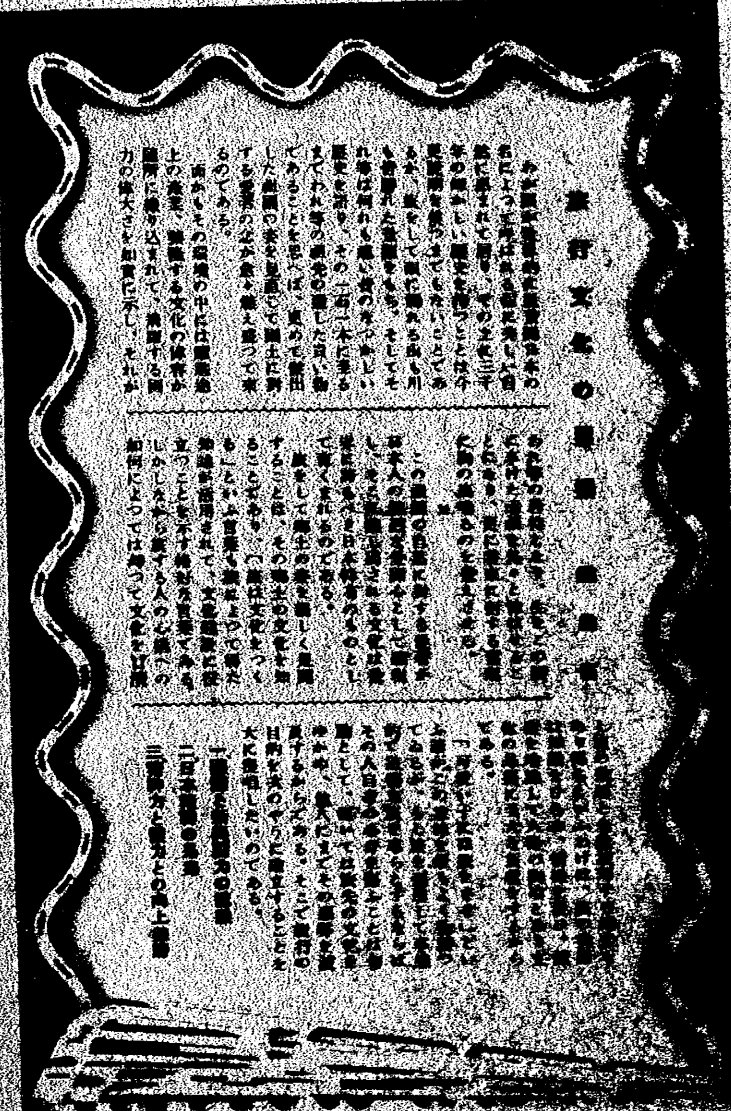
普及部編)大陸に於ける大業を完成せんためには、それを國の海洋の重要性を認識しこれに對する對策を樹立することが喫緊の要務である。本書は列國海軍軍備充實の情勢を述べ、東亞新秩序の建設に西太平洋諸海の如何に重大なる意義を有するものかを説く。(月刊一七〇頁、送料三錢、發行所 内閣印刷局)

▼外地地方行政區劃便覽(拓務省管理司編)朝鮮臺灣その他外地に於ける行政區劃及び地方制度の概要を小冊子にまとむ關係方面にのみ顔)

教學局選纂圖書紹介

▼國語叢書の根本義(山田孝雄著)國語學に關係した講演論文等六篇を収む。それ／＼趣を異にしたものであるが、すべて該博な國語知識に裏づけられた熱烈な國語愛護の精神をもつて一貫されてゐる。著者の主張するところは、國語は單なる思想の表現、傳達の道具であるばかりでなく、永く國民性を養ひ國民文化を培ひ來たつたものであるから、我々はこれを尊重し愛護しなければならぬといふ點にある。國語問題が喧しい折から國民一般にも一讀すべきものであらう。(月刊一七四頁、定價二角、送料一錢、發行所 京市神田區小川町三八白水社振替東京三三二八五)

週報	昭和十四年五月二十一日印刷發行	印刷所	東京市神田區永田町内閣印刷局
定價	半ケ年(前金) 一圓二十錢 一ケ年(前金) 二圓四十錢 (有期郵便に依る地域は一年四圓八十錢)	發行所	東京市神田區大手町
申込所	内閣印刷局發行課 電話九ノ内(三)三五二一九 振替東京一九〇〇〇番	各書店・驛賣店	東京市神田區保町一ノ三 振替東京九三九〇番
注意	<p>▲本誌より贈報の場合必ず「送報何枚より贈報」の旨を明記し且つ右欄記載の内閣印刷局宛に郵券三圓送付下さい</p> <p>▲本誌記事の無断複製は断固し致しません</p> <p>▲掲載記事に對する御意見を論議に關しては御意見書に御署名を明記し且つ下記の宛先へお送り下さい</p> <p>▲本誌へ御寄附の御場合は郵券一圓五圓</p>		



露光量違いにより重複撮影

宮内省編纂部より

▼日本政治の基礎理念... 国民精神文化の源流... 政治学は民主自由主義の国から借用したものであり...

教養局選定図書紹介

▼新農村の建設... 農村復興... 農村の建設は農村復興の第一歩... 農村の建設は農村復興の第一歩...

▼國語尊重の根本義... 國語は民族の魂... 國語は民族の魂... 國語は民族の魂...

Table with columns: 週報, 定価, 申込所, 注意. Contains subscription information for 'Shin Nihon' magazine.

旅行文化の昂揚

わが國が世界的に風景國日本の名によつて呼ばれる程に美しい自然に恵まれて居り、その上に三千年の輝かしい歴史を持つことは今更説明を俟つてもないことである...

われ等の矜持となり、生をこの國に享けた幸福を沁々と味はせることにになり、更に將來に對する奮起に胸の高鳴るのを覺えさせる。

し旅の效用と全然無関係な場合もあり得るといふわけは、旅の善用は知識をひろめ、情操を養ひ、健康を増進して人格の陶冶となり文化の昂揚に至大な貢獻をするからである。

一 國體と新興國力の認識

二 日本精神の昂揚

三 精神力と體力との向上練習



昭和十一年十月一日第一種郵便物認可
昭和十一年五月二十一日發行
（毎週一回本報日發行）

内閣印刷局印刷發行

伸ばせ皇國の生命線！

太平洋行進曲

海軍省選定歌
東日大毎募集
文部省檢定済

太平洋行進曲
藤原義江・四家文子
海軍軍樂隊 指揮 内藤清五

海の勇者
徳山 磯・中村淑子
由利あけみ・新田八郎

太平洋行進曲
徳山 磯・波岡惣一郎
海軍軍樂隊 指揮 内藤清五

行進曲「太平洋」
海軍軍樂隊
指揮 内藤清五

ビクターレコード



（判[A5]格規定國はさ大の書本）